#### 創造的復興を踏まえて描く「くまもと」の未来

#### 熊本市中心市街地グランドデザイン2050 概要

#### 【資料4-1】

#### 0. 構想の背景

- 熊本地震からの**創造的復興の数々の取り組みやまちづくりの機運を「まち の理想 | の実現につなげたい**、そうした思いから**熊本経済同友会と熊本商工** 会議所が中心となって、熊本市中心市街地のまちづくりの長期ビジョンにつ いて討論を重ねてきた。その要点を社会的提案としてまとめたのがこの「能 **本市中心市街地グランドデザイン2050** である。
- さて、熊本市中心市街地は、熊本城や城下町の広がりを基盤として各時代 が求める都市機能を充実させながら、**九州中央の広域拠点の役割を果**してき た。**熊本城**に代表されるくまもとの歴史や文化、**阿蘇や天草などの大自然**は、 世界に誇れる地域の資産である。また、新鮮で旨い食材を生産する農漁村地 域と近接している点も大きな魅力である。
- 一方、熊本市中心市街地は幾つかの中長期的困難にも直面している。
- ① 熊本市や熊本県における人口減少、特に45歳以下人口の減少とそれに伴 う深刻な人材不足や地域経済の縮退
- ② 熊本城の被災と復旧事業の長期化、さらには城下町の建替えに伴う町の 歴史的個性の希薄化
- ③大規模改修や建替え、設備の大改修などが必要となる大規模施設の集合 したエリアの存在
- ④ 駐車場や空きビルなど**中長期的には土地利用の空洞化が見込まれる土地** の広がり

などである

● 熊本市中心市街地のグランドデザインを描くにあたっては、想定されるこ れらの困難に対処するとともに、先述の優れた特質や九州における地理的条 件、熊本**地震の経験や教訓と創造的復興の取り組み**、さらには近年加速化し つつある経済社会や技術の変化なども視野に入れながら討論を進めることに なった (詳細は2枚目参照)

#### 図1-1 中心となる構想検討対象エリア (熊本市中心市街地活性化基本計画区域の415ha)

築城400年を迎えた熊本城を中心に多くの文化施設が立地。貴重 な歴史遺産であると同時に都市型観光の拠点としての役割を担う。



旧城下町の町人町に対応。夜間人口や事業者の転

出でかつての賑わいが失われた。しかし、町割り

が城下町の面影を伝える一方、明治大正建築も散

見され独特の生活文化が感じられる。



#### 1. 世界に拓く『城下町都市』くまもと が目指すところ

● 熊本市中心市街地は、世界に誇る熊本城を始めとする、地域の歴史、文化、自然の魅力を活かすと共に、若い世代が生き生きと活動する未来 標準の生活基盤を整えることで、国内はもとより世界からも注目され親しまれる多文化交流の都市、「世界に拓く『城下町都市』」となるこ とを目指す。その実現に向け、熊本城を要とする城下町の**基盤の上に、**場所ごとの特性を踏まえながら**次の4タイプのまちを積み重ねていく。** 

都市像1 国内はもとより世界から多数の人々が来訪し、観光や経済・ 文化交流、さらには滞在自体を楽しむことができるまち

都市像2 商業や業務などの都市活動に加え、観光サービスを通して熊 本の経済をリードすると共に、次の時代を拓くビジネスや人材 **を育む**ことができるまち

都市像3 熊本市民はもとより広域の人々が集い、上質の都市サービス **を気軽に享受**することができるまち

都市像 4 若者や高齢者、共働き世帯や留学生など、都市サービスや働 く場への近さを求める人々が集まり、**多様なスタイルで暮ら しを楽しみ、生きがいを得る**ことができるまち

#### 図1-2 世界に拓く「城下町都市」くまもとが目指す都市の構造

#### 歴史公園エリア

世界に誇る国指定特別史跡熊本 城を回遊しながら、その壮大な スケール、400年の歴史や文化、 震災復旧の取り組みなどを、体 感的に学べる場としての役割を

#### 城下町定住エリア

旧城下町の街割りの上に培われ 長崎・雲仙 てきた生活や文化の厚みを楽し上海 みながら暮らせる、まちなかの 定住の場としての役割を担う。 来訪者が「城下町文化」を体感 する場ともなる

#### 副都心エリア

熊本駅の存在はもとより今後、 西環状道路経由で高速道網に接 続するなど、熊本の陸の玄関の 役割を担う。また、こうした交 通アクセスの便を踏まえ、広域 機能が集積した城下町都市の副 都心としての役割を担う

## 熊本城前エリア 都心エリア 🎨 歴史公園エリア 定住エリア 熊本空港 北米 市電 熊本港 白川沿い定住エリア 熊本駅 回游路 ★水辺回遊路

副都心エリア

#### 都心エリア

既存の都市機能集積や広域交通アクセ ス、隣接する熊本城の存在感などを背 景に、滞在型観光や多文化交流の場が 集まった、城下町都市の中心としての 役割を担う

#### 熊本城前エリア

都心エリアの中でも本丸と対面する 立地条件から、都市ブランドを牽引 する都市機能や公共空間を備えた、 城下町都市の新しい「顔」としての 役割を担う

#### 白川沿い定住エリア

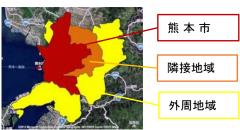
白川の自然や眺めと都市の賑わいを手 近に利用できる、まちなかの定住の場 としての役割を担う。若者、留学生、 共働き世帯などが多様なスタイルで暮 らせる場となる

#### 城下町都市回遊路

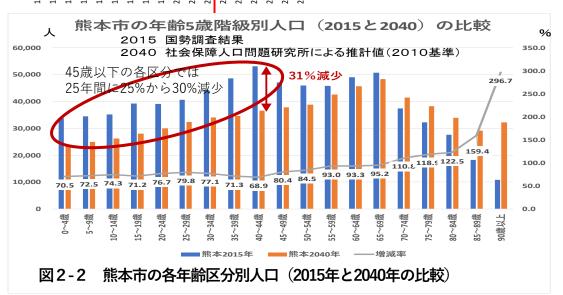
地元生活者の安全安心な移動を支える のはもとよりである。国内外からの来 訪者が城下町都市を回遊しながら、各 所に纏わる歴史や物語や眺めを楽しむ ための手がかりとなる

推計値 1.200.000 (基準2010年) 1,040,816 1.000.000 熊本都市圏 944,000 734,474 705.717 600,000 熊本市 659,000 熊本市や都市圏人口は 400,000 453,787 2010年からの30年間で1割減に 172,254 146,000 62,066 139,000 **隣接地域** 134,088

## 人口集計に用いた圏域の範囲



熊本市及び周辺地域の 図2-1 人口の推移と将来推計



# 水前寺競技場 (破線) 事業実施中/見込



面的開発実施済街区

熊本市中心市街地の土地利用資源

長期にわたって守り育てたい土地と 中長期に変化が期待される土地

#### 1) 想定した熊本市中心市街地の広域的役割

- ①熊本活性化のエンジンとなる (牽引する・先導する・拓く)
- ②熊本や地方都市のモデルとなる (先駆けとなる・先導する)
- ③熊本や九州のショーケースとなる (地域の窓口や仲介役となる・顔となる)

#### 2) 熊本市中心市街地が直面する中長期的困難

- ①人口、特に45歳以下人口の減少
- 図1 熊本市や都市圏人口が今後25年間で1割減に
- 図2熊本市の45歳以下人口は今後25年で各区分25%から30%減に
- ②人口減少や人手不足に伴う経済活動の縮退 地域総生産額の簡易な予測では人口に比例するとして予測 態本県の中長期経済展望では、県民の可処分所得 (GDP+年金+交付税等) が、2010年の7兆2千億円から 2050年には5兆3千億円程度に減少すると推計
- ③歴史文化遺産の被災や建替えに伴う城下町の個性の喪失
- ④災害に脆弱な建物・エネルギー効率の低い建物群の集積 図3の水色枠で表示した建物や土地など
- (5)平面駐車場や空きビルなど休眠状態の土地が広がる可能性 図3の橙色や赤色で塗った土地の広がり

#### 3)熊本市中心市街地の強み弱みと想定される好機や脅威

#### 活かすべき地域の強み

- ① 熊本城の存在と城下町由来の街の個性
- ②九州における地理的中心性
- (観光地や基幹的な都市との間の交流)
- ③豊富な地下水と旨い食材供給地の存在
- ④ 身近に利用できる、充実した都市サー ビスと良好な自然

#### 対策すべき地域の弱み

グランドデザイン2050 検討の前提条件と提案の考え方

能本県立劇場

- ①若者が魅力を感じる就業機会の 不足
- ②国際的知名度・ブランド力の低 さ(くまモンが善戦)
- ③間歇的に来襲する各種自然災害

#### 活かすべき外部からの好機

- ①海外旅行客の急増と観光産業及び周辺 成長の余地
- ② 成長するアジアとの近接性 (観光や輸 出の拡大)
- ③福岡への近接性・福岡経済の溢れ出し
- 4 創造的復興の機運と建物更新の進行
- ⑤ カーシェアや自動運転の普及で無用化 する駐車場用地の広がり
- ⑥女性や高齢者の労働需要増と都心志向 の生活スタイルの浸透

#### 対策すべき外部からの脅威

- ① 首都圏や福岡が発する経済や人 材吸引力の拡大
- ② 小売業の立ち位置を脅かす通販 の急成長
- ③大手企業の地方都市オフィス再 編縮小や、在宅勤務・遠隔勤務 の増加によるオフィス需要自体 の縮小

#### 4)グランドデザイン2050における中長期的施策展開の考え方

- ① くまもとの経済社会的活力低下を食い止めるため、国内外からの交流人口の増 加と、若い世代や外国人などの定住人口の誘導定着を図る
- ② 交流人口増加に向け、地域が保有する資源や九州における位置的条件を活かし て国際的に注目される滞在型都市観光の強化に取り組む 都市像1>戦略目標1.2
- ③ 定住人口の誘導定着に向け、観光産業及び関連産業の成長を促す、新しいビジ ネスの育成や起業を後押しする、創作活動を支援するなど、若者の就業機会 や活躍の場の創出に取り組む 都市像2>戦略目標2,3
- 4 また中心市街地が蓄積した**都市サービス機能の強化**と共に都市圏諸地域から中 心市街地への移動利便性向上に取り組む 都市像3>戦略目標2,5
- ⑤ さらに若者、共働き世帯、高齢者、留学生等、街なかの暮らしを求める人々が 定住する場の整備にも取り組む 都市像4>戦略目標3.4.5
- ⑥ 市街地の整備に際しては、 震災復興に伴う多数の建替えや市街地の面的整備の **動きを好機**と捉え、市民的理解と協力を得ながら、災害対して強靭で、**人や** 環境に優しく快適な建物群や公共空間の創出に取り組む > 戦略目標5
- (7)都市の個性や空間的魅力向上の観点から、熊本城や白川などの歴史・文化・自 **然資源やそれらに纏わる物語性を最大限活かす**よう工夫する > 戦略目標5
- ⑧ 民間の大規模施設や公共施設等の建替えに際しては、事業の継続性や敷地の特 性に配慮するなど**戦略的再配置を誘導**することで、**都市サービスの高度化、** 経済活性化、地方税収拡大に取り組む > 戦略目標 5
- ⑨ 空地や空き建物、長期的には需要減が想定される駐車場が集合するエリアの土 **地利用の高度化**を図る > 戦略目標4.5

# 「城下町都市」 くまもと

#### 都市像1

国内はもとより世界か ら多数の人々が来訪し、 観光や経済・文化交流 さらには滞在自体を楽 **しむ**ことができるまち

#### 都市像2

商業や業務などの都市 活動に加え、観光サー ビスを通して、熊本の 経済をリードすると共 に、次の時代を拓くビ ジネスや人材を育むこ とができるまち

#### 都市像3

熊本市はもとより**熊本** 都市圏に住む人々が来 訪し、そこに備わった 上質な都市サービスを **享受**することができる まち

#### 都市像4

若者や高齢者、共働き 世帯や留学生など、都 市サービスや働く場な どへの近さを求める 人々が集まり、**多様な** スタイルで暮らしを楽 しみ、生きがいを得る ことができるまち

# 3. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた5つの戦略目標と15の主要施策

2018 123着手済みの施策 2023

2030

#### 戦略目標 1 多文化交流の 九州のハフとしての 機能の強化

国際化が進む九州の中で、交通結 節点としての強みを活かし、国内外と の経済・文化交流や、九州一円の観 光周遊の核としての機能を強化する

#### ❶城下町都市ゲートの機能強化

能本空港ターミナルや八代港クルーズ 船ターミナル、熊本駅ビル整備、城域

#### ① 熊本空港及び都市圏内各地と城下町都市間のアクセス強化

鉄軌道の空港乗入れや市電一部延伸、空港道路や東バイパスの一部区間立体化

熊雷の市雷路線乗り入れ、自動運転のタクシーやバス網整備

# と都心部の観光バス乗降場や駐車場が 2 城下町都市と九州の多彩な観光資源を結ぶ体験型旅行プログラムと交通網の強化

国立公園、世界遺産、温泉地、拠点都市を結ぶ物語性のある体験型旅行プログラムを開発

在来の公共交通拡充に加え、予約型相乗りタクシー導入推進 30年代には自動運転小型バスなどの導入を推進

③ 多文化交流九州ハブの都心部拠点施設の整備と機能強化

多様なタイプの宿泊施設誘致、

九州ツーリズムのサービス拠点施設や

九州ツーリズムのサービス拠点施設や

⑥「城下町都市」くまもと復興EXPO開催、

西南戦争前の熊本城の再現を目標

熊本城再生100年プロジェクトの展開

注1「スマート・コミュニティ」:

ネットを媒介にエネルギー管理、

健康管理、見守りや防犯、買物家

事支援、カーシェアなど多様な生

活サービスを提供する住宅団地

年生まれ。今後30年間の経済社会

の担い手。モノの所有に関心が薄

く、堅実消費で、体験や人とのつ ながりを重視する傾向。車でも

ファッション衣料でも迷わずシェ

ア(共有)する。庭掃除や動画作

成まで自らを労働力として時間提

供。シェア経済をリード

注2「ミレニアル世代」:1980~2000

2050

「城下町都市」の構想と実績を学ぶ施設(第一期)の整備 「城下町都市」の構想と実績を学ぶ施設(第二期)の整備

#### 2 熊本城の復旧と各段階における見学環境整備

天守閣、長塀の早期復旧 石垣や櫓などの段階的復旧 立ち入り規制が長期化する 本丸周辺の作業成果や 見学ブリッジの整備

#### ④ 歴史公園の拠点施設群整備と熊本城入園料の在り方やサービス内容の検討

城域内の移転施設跡地に歴史・人物・文化・芸術資源の展示学習施設、武道館、能楽堂等を選択し整備 有料ゾーンの設定必要性やサービス充実財源の検討

#### ⑤城下町都市の回遊路及びそのルート沿いの学習案内システムや移動支援サービス整備

回游路の路面標示、案内所や掲示板設置、スマホなどを使った対話型情報案内整備 城下町定住エリアに、民家等を再生し城下町の文化や伝統産業の案内体験施設などを整備 デマンド型回遊バス、シェア自転車や相乗り街歩きタクシーなどの、小型移動支援サービスの整備

#### ⑧ 都心部における回遊と消費を促すエリアマネジメント戦略と組織体制の構築

ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新策や実店舗の戦略的配置誘導

夜間観光開発、特にくまもとの食文化のブランド化 宿泊・物販・飲食・旅行・交通の連携強化、農水産業や流通業などとの連携強化で観光産業のすそ野を拡大

都心エリアや城下町エリアの空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオフィスなどの整備を誘導、 起業支援サービス
人と技術のマッチングや創発ワークショップ開催などの支援プログラムを提供

#### ⑪白川・坪井川隣接市街地における「まちなかの定住と働く場」の整備誘導

河川隣接地の駐車場跡地などを種地として、「スマート・コミュニキィ」 (注1) を始めと する多様なタイプの住宅開発整備を誘導。「ミレニアル世代」(注2)や共働き世帯、高齢 世帯、留学生などが求める多様なスタイルの生活実現を支援

可動堰等の設置で水位を確保し水上交通やスポーツ利用を推進

#### (13) 環境負荷が低く戸外に賑わいが感じられる市街地整備の誘導

#### ❸市民協働の防災減災体制の構築及び建替えを契機とする災害に強靭な市街地の創出

被災建物や機能劣化した建物の改修や建替えを促進し、防災広場・公園を確保する 手軽なWIFIの利用環境や多言語の案内・サービスを整備する

#### 4 大規模公共施設の移転再配置による施設の機能強化と跡地の有効活用

藤崎台野球場、熊本武道館、氷前寺陸上競技場、県立劇場などの移転再配置を促進し、県都の施設として 必要な機能を強化。跡地は立地条件を踏まえて新らたな施設導入や周辺市街地整備に活用。

#### ①熊本空港及び都市圏内各地と城下町都市間のアクセス強化(再掲)

鉄軌道の空港乗入れや空港道路の一部区間立体化 市電一部延伸、熊電の市電路線乗り入れ、自動運転のタクシーやバス網整備

#### (15) 「城下町都市」の顔に相応しい市街地整備の誘導

熊本城前エリアで建替えが見込まれる施設群について玉突き的建て替え と敷地条件を活かす機能再配置を誘導 熊本城の眺望を活かす上質な公共空間の整備や活力を牽引する都市機能 の誘致を推進。|九州ツーリズムの拠点施設等(第二期)を拡充整備 3 市電やバスの熊本城前の乗降場を再整備

#### 戦略目標 2 物語豊かな滞在型の 都市観光サービスの

高度化

熊本の中心市街地来訪者が、地域 の歴史や自然、食や生活文化の魅 力と出会い、滞在すること自体を楽し めるサービスを提供する

#### 戦略目標 3 多彩な人材や 新たなビジネスを育む

環境の醸成

建造物の修復や工芸などの伝統技 術習得を始め、各種創作活動や新 しいビジネスの開拓などに挑む若者 が育つ環境を醸成する

#### 戦略目標 4 いろいろな世代の 多様な暮らしを 支える場の創出

什事や学びや楽しみの場が集まる街 なかで、いろいろな世代がそれぞれ 自分に合ったスタイルで暮らせる環境 を創出する

#### 戦略目標 5 人と環境に優しく 固性的 な市街地の創出

高度な都市サービスと便利な交通 を利用でき、また災害に強くエネル ギー消費も少ないなど、人と地球 に優しく個性的な市街地を創出す

# 作業風景の見学路と案内板、

# 7)「熊本市歴史的風致維持

向上計画しの認証獲得

歴史まちづくり法に基づく計画。 城下町都市内諸エリアの歴史文化 的個性強化とそれらの間の回遊を 促すまちづくりの指針を示し、施 策の財政・制度的推進力ともなる

**の26**は着手済みの施策

公共空間の整備とそこを活用したイベントなどの企画運営

#### ⑨ 城下町都市3泊4日滞在プログラム開発と受入れ体制整備

県内のツアー資源との連携による物語性のあるプログラム開発

#### ⑩創造的活動や新しいビジネスに挑む若者等の活動支援体制の拡充強化

#### ② 白川・坪井川の野外活動機能の強化

河川敷や橋等における野外活動施設や白転車道の整備

周辺市街地からのアクセス路整備、歩行者自転車橋を整備、

建替えを契機に建物の集合化を図ることでゆとりの公共空間創出やエネルギー管理のスマート化や効率 化を促進。住宅、商業、生活サービスなど用途の複合化で、戸外に生活感を創出

## 4. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた7つの戦略プロジェクト

#### 歴史回廊整備プロジェクト

関連施策 24(5)(7)(4)

#### ●プロジェクトの狙い

熊本城域は今後100年かけて西南戦争以前の姿に整 備する。当面30年間は**400年の歴史や文化**、さらには 20年にも及ぶ震災復旧の過程などを回遊しながら体感 **的に学べる場**として整備する。

新町古町には、城下町の街割りや江戸・近代・現代 と時代層の異なる生活や文化、食と職などの「城下町 文化 | を体感できる回遊の環境を整備する。

#### ●主要な施策や事業の提案

- + 天守閣を早期に復旧する一方、20年にも及ぶ石垣 や門や櫓などの復旧過程を見学できる環境を整備 する2
- + 「熊本市歴史的風致維持向上計画」を策定し国の認 証を得る(7)
  - ●歴史まちづくり法に基づく計画。城下町都市内諸エリアの歴史文化 的個性強化とそれらの間の回遊を促すまちづくりの指針を示す。施策 の財政・制度的推進力ともなる
- + 熊本城域からの移転が進む施設用地を、熊本の歴 史·文化・芸術の展示学習・体験施設などとして 整備する。その一方**熊本城入園料の在り方やサー** ビスの内容を検討する④
  - ・加藤・細川・武蔵の遺産や物語
  - ・武道や武士道や肥後六花などの文化
  - ・漱石・八雲の遺産と熊本の文化への貢献
  - ・近世・近代の歴史における熊本の役割
  - ・伝統技術と職人の力
  - 城の修復技術研修や技術体験
  - ・富重寫眞所の活躍と所蔵品、など
- + 藤崎台野球場を移転させ、跡地を熊本城域におけ る敷地条件に相応しい形で再整備する(4)
- + 熊本城域はもとより新町古町の歴史文化的資源、さ らには都心部に残された漱石や八雲の遺産などを 巡る「城下町都市回遊路」を設定し、ARやVRな **どを活用した学習案内**システムを整備する (5)
  - ・同游路の路面標示、案内所や掲示板設置、スマホなどを使った対話型 情報案内整備
  - ・城下町定住エリアに、町家等を再生し城下町の文化や伝統産業の案内 体験施設などを整備
  - ・デマンド型回遊バス、シェア自転車や自動運転カートなどの、小型移 動支援サービスの整備
  - ・漱石・八雲の遺産を残し、文化を活かす

・スマホ画面に眼前の風景を表示すると共にその風景の説明など補助 情報を文字や画像で重ねて表示する技術

・画像メガネなどを使って街やモノの立体的な姿を画像表示し、恰も 画像世界に入り込んだかのような体験を提供する技術

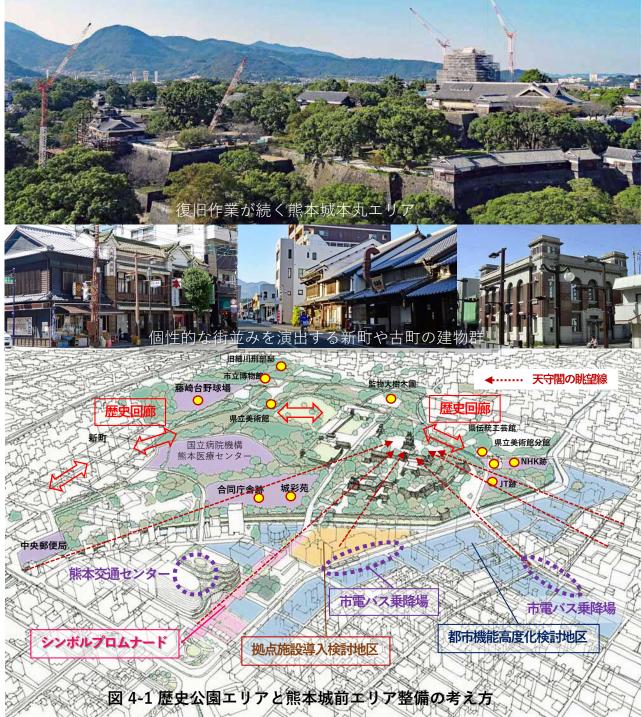


図 4-2 シンボルプロムナード から見た熊本城と 熊本城前エリアの 眺望イメージ



#### 熊本城前エリア整備プロジェクト

関連施策 33(5)(8)(3)(15)

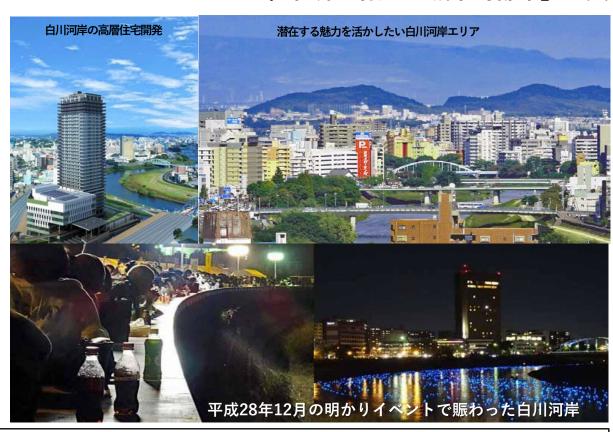
#### ●プロジェクトの狙い

熊本城の東南に隣接するエリアを、世界に拓く 「城下町都市」くまもとの「顔」に相応しい市街地 として整える。すなわち導入される**都市機能を高度 化**すると共に、**都市景観の魅力**を高めることにより、 くまもと全体のブランド力向上につなげる。

#### ●主要な施策や事業の提案

- + エリア内の大規模改修や建替が見込まれる建物 群について、**建替えを計画的に誘導・調整**しな がら、敷地毎の立地特性を活かすように都市機 **能の再配置**を図る。併せて、ホテルなど**活力の 牽引車となる施設の立地**を誘導する(5)
- + 建替えを契機に建物の集合化を図ることで、シ ンボルプロムナードや坪井川に連続する質 の高い公共空間創出やエネルギー管理のス マート化・効率化を促進する **3**(15)
  - ・熊本城本丸の建物群や長塀と対面する位置に風格の感じられる眺 望を楽しめる場を設けると共に、地下水都市を象徴する親水広場
  - ・低層部に商業サービス系施設を誘導することで、戸外に賑わいや 生活感の創出を図る
- +熊本城域への主要入り口の一つとして熊本城前の 市電やバスの乗降場を安全で美しい施設に再整 備する。また、そこから**城域に至る歩行者動線** やアーケード街に至る歩行者動線を想定し、そ れぞれ魅力的な回遊路となるよう公共空間の整 備や沿道施設の調整誘導を進める (5)(8)(15)
- + 九州ツーリズムのサービス拠点施設や「城下町 都市」のまちづくりや創造的復興の実績を紹介 **する拠点施設**を熊本城前エリアに整備する③
  - ・早い段階で第一期の施設を他施設内に整備し、熊本城前エリアに 独立施設として整備する

### 4. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた7つの戦略プロジェクト



#### 白川沿い定住エリア整備 プロジェクト

関連施策3(10(11)(12)(13)

#### ●プロジェクトの狙い

白川の河川敷や橋などを都市内の優れた野外活動 エリアとして機能強化する。さらに両岸の隣接エリ アを、白川の自然や美しい眺めと都市の賑わいの両 方に近接した、多様なライフタイルで暮らせる上質 の「まちなか定住」の場として再整備を促す。

#### ●主要な施策や事業の提案

- + 白川の堤防や河川敷に緑陰・野外活動広場・遊歩 道・自転車道などの整備と共に橋上や橋詰に水辺 の眺めを楽しむ場づくりを誘導する ⑫
  - ・歩行者や自転車が周辺市街地から堤防上に容易に到達できる歩道 橋などの整備
  - ・長期的に国道3号の自動車交通量が減少することを踏まえ、域内区間の歩行者環境を整備
  - ・可動堰などによる水位の確保を含め、白川や坪井川の水上交通やスポーツ利用の働きかけ
  - ・白川公園付近や河原町付近など道路橋の間隔が長い区間に、白川 の両岸を結ぶ歩行者・自転車専用橋の設置を働きかけ
- + 機能劣化した**建物の改修や集合建替えの促進**はもとより、駐車場など長期的に利用休止が見込まれる土地も活用しながら、災害に強靭な市街地整備を誘導する❸
  - ・防災広場や公園の創出、不燃耐震建造物への建替え

#### Smart Community

- ・ネットを使い、エネルギー管理、健康管理・見守り・防犯・買い物家事支援・カーシェアなど、各種の生活サービスを地域で提供する住宅地団地。
- ●ミレニアル世代(1980-2000年生れ)
- ・労働力人口の5割を占める。モノの所有に関心が薄く堅実消費で、体験や人とのつながりを重視する。車でもファッションでも住居でも迷わずシェア(共有)する。庭掃除や動画作成まで自らを労働力として提供。シェア経済をリード。
- + ミレニアル世代や共働き世帯、高齢世帯、大学 生や外国人研究者など、まちなか志向の居住者 が、それぞれ自分のスタイルで働きながら暮ら せる「スマート・コミュニティ」のモデル事業 を誘導する ①③
  - ・家族用住宅、単身世帯用住宅、シェアハウス、長期滞在型ホテルなど、多様な形式の住居と共に、買物、食事、保育、家事支援、趣味やスポーツ施設などのコミュニティサービス(ビジネス)の場も併せて整備
- + **創造的活動や新しいビジネスに挑む若者等**の活動をハード・ソフトの両面から**支援する体制を重点的に強化する** ⑩
  - ・建物の空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオフィスなどの整備を誘導
  - ・起業支援サービス、人と技術のマッチング、地元企業や地元社 会が抱える課題解決に向けた創発ワークショップ開催など、 各種支援プログラムを提供



#### 滞在型都市観光強化プロジェクト

関連施策 (2)(3)(4)(5)(8)(9)

#### ●プロジェクトの狙い

九州の**観光周遊や文化交流の結節点としての機能**、さらには**滞在型都市観光地**としての**中心市街地のサービス機能を強化**すると共に、県全体の**観光産業の発展**とその**すそ野の拡大**に貢献する。

#### ●主要な施策や事業の提案

- + **九州一円**の多彩な**観光資源を結ぶ体験型旅行 プログラム**を開発し、少人数でも利用できる新しい手段による**交通サービスを整備**する②
  - ・国立公園、世界遺産、温泉地、拠点都市を結ぶテーマ性のある 体験型旅行プログラムを開発
  - ・在来の公共交通拡充に加え、予約型相乗りタクシー導入、2030 年代には自動運転小型バスなどの導入を想定
- + **多様なタイプの宿泊施設**を整備する ③
- + 「城下町都市」に最低**3泊4日は滞在したくなる** 体験学習型観光プログラムを開発し、受入れ体 制を整備拡充する ⑨
  - ・夜間観光プログラムの充実、くまもとの食文化のブランド化、
  - ・県内のツアー資源との連携による物語性のあるプログラム開発
  - ・宿泊・物販・飲食・旅行・交通の業際的連携強化、農水産業や 流通業などと連携したビジネスモデルの開発など観光産業のす そ野の拡大
- + 熊本城域から**移転が進む施設用地**を、熊本の**歴 史・文化・芸術の展示学習・体験施設**として整 備する④ (再掲 歴史回廊整備プロジェクト参照)

+ 九州ツーリズムのサービス拠点施設や「城下町都市」のまちづくりや創造的復興の実績を紹介する拠点施設を熊本城前エリアに整備する③

(再掲 熊本城前エリア整備プロジェクト参照)

- + 通町筋、桜町、熊本駅周辺の交通結節点や商業集積相互、さらにはそれらと熊本城域をはじめとする城下町都市の魅力スポットを結ぶ「城下町都市回遊路」を設定し、それにそった回遊を助ける新しい交通手段や学習案内システムを整備する⑤
  - ・都心エリアと副都心エリアを結ぶ交通手段として新たにデマンド式 シャトルバスを導入
  - ・そのほかのエリアにはシェア自転車や相乗り街歩きタクシーなどの小型移動支援サービス、白川や坪井川を利用した水上交通などを導入
- + **都心部における回遊と消費を促すエリアマネジメント 戦略**と組織体制の構築 (8)
  - ・ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新や実店舗の 戦略的配置誘導
  - ・公共空間の整備とその場所を活用したイベントなどの企画運営
- +「城下町回遊路」に沿って、由緒のある場所に纏わる物語の紹介、特に多言語による紹介を充実する⑤

#### 4. 世界に拓く「城下町都市」の実現に向けた7つの戦略プロジェクト

#### 都市圏交通網強化プロジェクト

関連施策 1(1)(2)(5)

#### ●プロジェクトの狙い

**陸海空の都市ゲートの機能を強化**する。少人数の旅行客でも便利に 移動できるよう、また都市圏住民が中心市街地の高度なサービスを身 近に利用できるよう、中心市街地内外を結ぶ安全安心快適な公共交通 網を強化する。

#### ●主要な施策や事業の提案

- + 熊本空港ターミナルや八代港クルーズ船ターミナル、熊本駅ビル等、 民の力を活かして都市ゲートの広域機能を強化する。熊本城域と都 心部における**大型観光バス用の乗降場や駐車場を整備**する **①**
- + 鉄軌道の熊本空港乗り入れや空港道路及び東バイパス等の一部区間 立体化により、**空港と中心市街地の間のアクセスを強化**する①
- + 市電の延伸や熊電の市電路線乗り入れを進める。30年代には普及が 見込まれる**自動運転バス網**などを整備し、**人に優しい都市圏の移動** 環境を実現する(1)
- + 中九州横断道や九州中央自動車道の開通を促進する。デマンド型 サービスや自動運転などの新技術を積極的に活用し、県内や九州 各地の観光地、世界遺産等を結ぶ安全で便利な交通サービスの充 実を図る(2)
- + 通町筋、桜町、熊本駅周辺に位置する交通結節点や商業集積相互、 さらにはそれらと熊本城域・新町古町などを結ぶ「城下町都市回遊 路」を設定し、それに沿った回遊を助ける新しい交通手段を整備す る(5)
  - ・都心エリアと副都心エリアを結ぶ交通手段として新たにデマンド式シャトルバスを導入
  - ・そのほかのエリアにはシェア自転車や乗合タクシーなどの小型移動支援サービス、白川や 坪井川を利用した水上交通などの導入を図る

#### 図 5-1 想定される公共交通の整備路線 (破線)



#### 公共施設用地利活用推進プロジェクト

関連施策 4(14)

#### ●プロジェクトの狙い

中心市街地内外の公共施設等について、経済社会ニーズの変化を捉 えると共に、都市経営の観点から、**施設等の移転再配置を検討**し、政 令市に相応しいサービス提供とくまもとのブランド力強化を図る。

#### ●主要な施策や事業の提案

+ 熊本城域内から移転が進む施設用地を、熊本の歴史・文化・芸術 の展示学習・体験施設として整備する ④

再掲(歴史回廊整備プロジェクト参照)

- + 藤崎台野球場は移転により県都に相応しい施設として整備する。 跡地は熊本城域における敷地条件に相応しい形で活用する (4) 再掲(歴史回廊整備プロジェクト参照)
- + 熊本城域内の大規模駐車場用地、城彩苑用地等も活用策や利用継 続の在り方を検討する(4)
- + 水前寺陸上競技場、熊本競輪場、水前寺野球場、熊本武道館、熊 本県立劇場等についても、その移転再配置を促進し、県都の施設 に相応しい機能を強化する。その跡地は立地条件を踏まえて新ら たな施設導入や周辺市街地整備に活用を図る(4)



熊本 県立劇場



水前寺陸上競技場 熊本競輪場 水前寺野球場 熊本武道館

#### 若者や外国人材の活躍と定住促進プロジェクト

関連施策 (8)(9)(10)(11)

#### ●プロジェクトの狙い

長期にわたる熊本城の復旧事業を伝統技術の習得に活かす、観光ビ ジネスの開拓や商業業務サービスのIT**化など地域課題解決への参加を** 促す、空き床など活動の場を提供する、大学や研究機関と連携するな ど、地元が保有する機会や資産を活かして、意欲的な若者や外国人材 **等の活躍の場を提供し、地元への定住を促進**する。

#### ●主要な施策や事業の提案

+ 創造的活動や新しいビジネスに挑む若者や外国人材等の活動をハー ド・ソフトの両面から支援する体制を強化する(10/8/9)

再掲(白川沿い定住エリア整備プロジェクト/滞在型都市観光強化プロジェクト参照)

- ・建物の空き床や駐車場跡地などを活用した、共同工房・アトリエ・シェアオ フィスなどの整備を誘導
- ・起業支援サービス、人と技術のマッチング、地元企業や地元社会が抱える課題 解決に向けた創発ワークショップ開催など、各種支援プログラムを提供
- ・ネット商業の成長を踏まえて実店舗のサービス革新や実店舗の戦略的配置誘導
- ・公共空間の整備とその場所を活用したイベントなどの企画運営
- ・夜間観光プログラムの充実、くまもとの食文化のブランド化、
- ・宿泊・物販・飲食・旅行・交通の業際的連携強化、農水産業や流通業などと連 携したビジネスモデルの開発など観光産業のすそ野の拡大
- + ミレニアル世代や共働き世帯、高齢世帯、大学生や外国人研究者な ど、まちなか志向の居住者が、それぞれ自分のスタイルで働きなが **ら暮らせる「スマート・コミュニティ** のモデル事業を誘導する (1) 再掲(白川沿い定住エリア整備プロジェクト参照)
  - ・家族用住宅、単身世帯用住宅、シェアハウス、長期滞在型ホテルなど、多様な形式の住居 と共に、買物、食事、保育、家事支援、趣味やスポーツ施設などのコミュニティサービス (ビジネス) の場も併せて整備
- + インターナショナルスクールや外国人材とその家族のための日本文 **化学習プログラム**を整備する
  - ・熊本城域という地の利や交通アクセスを活かせる場所に、九州全域から生徒を集めるよう なインターナショナルスクールを誘致

#### 「世界に拓く城下町都市くまもと」の創造 ~中心市街地グランドデザインの概要~

#### はじめに

これまで、くまもと都市戦略会議(以下「都市戦略会議」という。)では、「熊本城ホールの建設」や「上海事務所の設置」、「トビタテ!留学JAPANの実施」など、広範かつ長期的な視点に立ち、産学官の連携が必要不可欠な熊本の地域課題や将来ビジョンについて協議し、その取組の推進について合意してきた。

また、熊本地震直後の平成28年6月には、「創造的復興に立ち上がろう!熊本宣言」を発表し、産学官で自らなすべきことを全力で取り組むとともに、連携して創造的復興に取り組むことに合意した。

そのような中、平成30年1月、熊本商工会議所及び熊本経済同友会から、熊本地震からの 創造的復興を見据え、2050年を目標に熊本市中心市街地のビジョンを描いた『熊本市中心市 街地グランドデザイン2050』(以下「グランドデザイン」という。)が発表された。

この「グランドデザイン」を踏まえ、中心市街地のみならず、熊本都市圏及び県全域への 波及効果を視野に入れつつ、30年にわたる長期的な戦略を産学官連携のうえ検討・実施して いくため、今回の都市戦略会議においては、グランドデザインに掲げられた「課題」や「目 指すべき姿」を共有し、今後10年間の取組と各々の役割を整理することとした。

#### 1 中心市街地が目指すべき姿と課題

#### (1) 中心市街地が目指すべき姿

熊本城を中心に城下町として発展し、熊本の政治・経済を牽引してきた熊本市中心市街地。 その歴史的背景や緑豊かな環境、都市機能の集積といった基盤のうえに、多様な生活や交流を受け入れる高度で上質な空間を創ることで、国内のみならず世界から人々が集い、豊かな暮らしや滞在を楽しむことができる「世界に拓く城下町都市くまもと」の創造を目指す。 これにより、熊本都市圏の発展、ひいては県全域の発展へと繋げていく。

#### (2) 熊本都市圏をはじめとした県全域共通の課題

中心市街地が、その目指すべき姿「世界に拓く城下町都市くまもと」を実現し、中心市街地のみならず、熊本都市圏をはじめとした県全域が今後も維持・発展していくためには、次のような共通の課題を、産学官、そして県民・市民が一体となり克服していかなければならない。

- ・人口減少・若者の県外流出による担い手不足や経済活動の縮小
- ・熊本城や阿蘇などの被災による観光産業への影響
- ・既存建物群の老朽化による大規模改修や建て替え、移転等が必要となるエリアの発生
- ・空き地や空き家、駐車場の増加等、スポンジ化による都市の衰退
- ・歴史的町並みや建造物の被災取り壊し等によるまちの個性の喪失

#### 2 課題の克服と発展へ向けた、「世界に拓く城下町都市」の実現

中心市街地は、ヒト・モノ・カネ・情報の集積により、都市だけでなく、都市圏域や県全域に対して、次のような機能がある。

- ① 経済活動を推進する「エンジン」としての機能
- ② 人口流出を抑制し、人が集い交流する「ステージ」としての機能
- ③ 高次の都市機能が集積する「シンボル」としての機能

今後、人口減少が進展する熊本を持続的に発展させていくためには、熊本都市圏をはじめとした県全域が抱える課題を克服するとともに、中心市街地が持つ「エンジン」「ステージ」「シンボル」としての機能を最大限に発揮し、県全域に波及させることが必要不可欠である。



#### 「世界に拓く城下町都市くまもと」の創造 ~3つの成長戦略~

#### 3 目指すべき姿の具体的イメージ

歴史的背景や緑豊かな環境、都市機能の集積を活かしつつ、高度で上質な空間を創り、多様性と包摂性を有するまち『世界に拓く城下町都市くまもと』。

その具体的イメージは次のとおりである。

国内はもとより世界から多数の人々が集い、熊本城を中心とした観光や 文化交流、さらには滞在自体を楽しむことができるまち

# 誘客と交流



商業などの都市活動に加え、観光サービスを通して熊本の経済をリードすると共に、次の時代を拓くビジネスや人材を育むことができるまち





熊本市民はもとより広域から人々が集い、安全安心で、歩きやすく上質な都市空間や河川空間に触れることができるまち

# 新たな都市空間の創造





若者や高齢者、共働き世帯や外国人など、都市サービスの享受や働く場への近さを求める人々が集まり、多様な価値観やライフスタイルが尊重され、生きがいをもって豊かな暮らしを楽しむことができるまち





#### 4 目指すべき姿の実現に向けた成長戦略

『世界に拓く城下町都市くまもと』の実現のため、活力と資源を呼び込む「観光·交流戦略」、イノベーションにより新たな価値を創造する「人材育成・定着戦略」、成長への環境をつくる「都市基盤再生戦略」の3つの戦略を柱として、当面10年間に取り組む成長の種(10のプロジェクト)を選定する。

#### 観光・交流戦略

モノ消費からコト消費に移行している中、観光産業の振興による交流人口の増加は、目指すべき都市の将来像の実現に向けた重要戦略である。また、観光産業は裾野の広い総合産業であることから、その成長が地域経済に与える効果も多大なものがある。

そこで、国内外から多くの観光客を呼び込むことのできる「熊本城」を観光・交流戦略の中核に据え、熊本城の復旧・復興に全力で取り組むとともに、新たな観光資源の整備に加え観光客の利便性の向上に取り組むことで、九州の国際交流拠点を目指し、観光産業の振興及び交流人口の増加によるまちのにぎわいを創出する。

#### 人材育成・定着戦略

中心市街地の持続的成長と活気あるまちづくりのためには、若者の地元定着とUIJターンの促進のため、生活の基盤となる良質な就労の場を確保することが重要である。

そこで、多様化・グローバル化する企業のニーズに応える知識や技能、コミュニケーション能力を備えた人材を育成するとともに、熊本発のイノベーションや新たな産業の創出、 チャレンジ精神に富んだ若者を惹きつけるための起業・創業支援を推進していく。

また、目まぐるしい技術革新や産業構造の変化に対応するため、社会人の再教育(リカレント教育)を進めるとともに、外国人材の地元企業への就職支援などを通して、都市の多様性や企業のグローバル化の適応力を向上させる。

#### 都市基盤再生戦略

中心市街地がヒト・モノ・カネ・情報が集積する場としての機能を維持するためには、継続的に都市基盤を整備・更新する必要がある。

そこで、土地利用の高度化・老朽建物の耐震性向上による、高度で上質な都市空間の形成を図るため、再開発事業の推進など都市基盤の再生に取り組む。

また、中心部の交通渋滞を緩和するため、公共交通機関の定時性を高める等の公共交通機能を強化するとともに、都市の魅力向上のため、現在整備を進めているシンボルプロムナードなど、人の流れが集中するエリア一帯を「歩いて楽しめる都市空間」として整備する。

さらには、既にスポンジ化現象が始まっているエリアの整備(職・遊・学に近接したまちなか定住環境の場)や、スポーツ・文化施設等のあり方や利活用、まちなかの新たな憩いの場としての白川・坪井川の整備などについて検討する。

#### 「世界に拓く城下町都市くまもと」の創造 ~10のプロジェクト~

#### 5 成長の種(3つの戦略と10のプロジェクト)

#### 観光・交流戦略

#### (1) 滞在型観光の強化と受入体制の整備

【目的】観光サービス機能の強化と地理的条件を活かした九州の国際交流拠点を目指すことにより、観光産業や関連産業の振興を図る

- ① 新たな観光資源、ツーリズムの開発
  - ・城下町、県内、九州一円を対象とする体験型観光ルートの開発
  - ・夜間景観を楽しめる魅力的なライトアップ など
- ② ICTを活用した観光サービスの提供
  - ・観光スマホアプリ開発、多言語対応、通信環境や決済環境の改善 など
- ③ 多様な宿泊施設の誘致
  - ・海外の富裕層など観光客のニーズに応じた多様なグレード·形態の宿泊施設の誘致 など

#### (2)歴史公園エリアの拠点施設整備と城下町エリアの市街地再生

- 【目的】熊本城復旧とJT・NHK跡地の整備、歴史的風致維持向上計画の策定による文化観光 拠点の整備と回遊性の向上、被災した新町・古町など城下町の再興を図る
  - ①熊本城の復旧過程を体感できる取組
    - ・仮設見学通路の設置 など
  - ②千葉城・古城エリア(JT/NHK/合同庁舎跡地など)の適切な保存と活用
    - ・特別史跡指定と整備方針の策定(熊本城調査研究の拠点整備など)
    - ・歴史文化資源(加藤・細川家、宮本武蔵関連など)の保存活用
    - ・合同庁舎跡地の暫定利活用 など
  - ③城下町エリア (新町・古町地区など) の市街地再生
    - ・歴史的風致維持向上計画の実施等による新町・古町地区の歴史的風致の向上
    - ・歴史文化資源(夏日漱石関連など)の保存活用 など

#### (3) 中心市街地と空港等へのアクセス強化と、都市圏域内の公共交通網の充実

- 【目的】中心市街地と空港等のアクセス強化により国内外からの集客力の強化を図るととも に、都市圏域内の公共交通網の充実により、中心市街地を行き来する都市圏域住民 の利便性向上を図る
  - ①広域交通拠点(空港、駅、港)と都市圏を結ぶアクセスの強化
    - ・能本空港と中心市街地を結ぶ交通アクセスの改善 など
  - ②公共交通網の充実
    - ・路線やダイヤの見直し等による利便性の向上や、市電の延伸 など

#### 人材育成・定着戦略

#### (4) 若者や意欲的な人材の育成・創業支援

【目的】起業、社会人再教育、まちづくり活動等への支援充実により、次代を拓くビジネス 人材の育成を図る

- ①起業支援
  - ・大学等の研究成果を活用したベンチャー企業等への支援
  - ・起業志望者に対するインキュベーション施設等による支援 など
- ②社会人再教育(リカレント教育)体制の構築
  - ・まちなかビジネスアカデミーの創設 など
- ③次代を担う若者の人材育成
  - ・産学官連携による若手経営者等の新たな人材育成の推進
  - ・「(仮称)熊本未来人材育成塾」の創設 など

#### (5) 若者の地元定着や外国人材の活躍に向けた産学官の連携強化

【目的】産学官連携により、若者の地元定着、外国人材の活躍の促進を図る

- ・成長産業の誘致
- ・学卒者等の奨学金返還等に係る支援
- ・県内企業の魅力向上(グローバルに展開する県内企業の認知度向上、フルタイム ・有償インターンシップの拡大)
- ・留学生をはじめとした外国人材の受入れ拡大や、県内企業等への就職支援 など

#### (6) 若者等の「まちなか居住」の促進

- 【目的】民間団体や地域と連携し、「まちなか」における良質な住宅の提供と居住環境の形成などを図る
  - ・老朽化した建物への適切な対応による居住環境の整備
  - ・空き地・空き家対策の推進(市場流通への誘導やエリア単位での居住空間の整備など)
  - ・集合住宅の適正管理の促進 など
  - ・まちなか賑わい活動などへの支援(大学生や高校生を主体とする活動への支援)など

#### 「世界に拓く城下町都市くまもと」の創造 ~10のプロジェクト~

#### 都市基盤再生戦略

#### (7) 熊本城前エリアにおける上質な都市空間の創出

- 【目的】熊本の「顔」に相応しいエリアー体の整備構想を策定し、被災・老朽建物の面的更新 (再開発)の促進、土地の高度利用及び防災機能の強化等を図る
  - ・良好な景観形成と防災機能強化のためのオープンスペースの確保
  - ・被災建物等の建替え促進に向けた規制緩和の検討 など

#### (8) 「だれもが歩いて楽しめる城下町」の整備

- 【目的】公共交通網の利用促進や歩道の拡幅等により、市民や観光客が城下町の各エリアを楽 しく安全快適に回遊できる歩行空間の創出を図る
  - ・シェア自転車の利用促進
  - ・駐車場附置義務台数の緩和と、適正な駐車・駐輪場の整備・誘導
  - ・オフィスビル低層階への商業機能誘導
  - ・辛島公園周辺の再整備 など

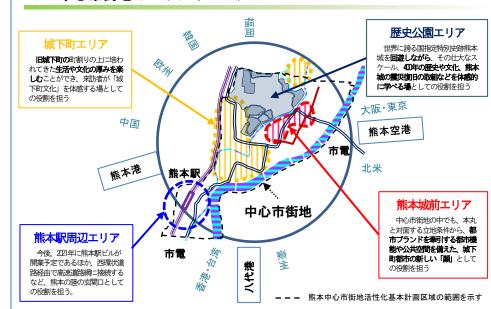
#### (9) 白川・坪井川の河川空間を活用した中心市街地の魅力向上

- 【目的】中心市街地を縦断する白川・坪井川の水辺空間の整備により、都市の賑わいを融合した、市民や観光客が憩い・楽しめる野外活動エリアの創出を図る
  - ・白川・坪井川の河川敷や橋等の夜間景観の整備
  - ・白川・坪井川の橋上・河川敷を活用した親水・賑わいイベントの活性化 など

#### (10) スポーツ・文化施設等のあり方や利活用の検討

- 【目的】地域・経済の活性化を図るため、野球場、競技場及び体育館等のスポーツ施設や、劇場、美術館及び図書館等の文化施設等のあり方について検討する。また、スポーツコミッョンなどの新たな活用方法等を検討する
  - ・スポーツ施設や文化施設のあり方の検討
  - ・くまもとスポーツコミッション設立の検討 など

#### 6 中心市街地のエリアイメージ



#### 7 各機関の役割と推進体制

#### (1) 各機関の基本的役割

#### 熊本県・熊本市の役割

行政が主体となって取り組むべき課題について、熊本県・熊本市で役割分担し、各々が推進主体となって取り組むとともに、これ以外の取組についても産・学との連携や調整に努める。

#### 能本大学の役割

主に人材育成・定着戦略に掲げる取組について、産・官、その他高等教育機関と連携し、推進主体となって取り組む。また、研究機関として蓄積された知識を活用し、すべての取組に対して適宜助言・協力を行う。

#### 熊本商工会議所・熊本経済同友会の役割

すべての取組は、民間企業の理解や協力、自主的な取組が不可欠なことから、会員企業や傘下企業への周知や調整機関としての役割を担う。特に、人材育成・定着戦略について、選ばれる企業となるための魅力向上や若者などの起業を積極的に支援する取組を官・学と連携しながら主体的に進める。

#### (2)推進体制

当面10年間に取り組む10のプロジェクトについて、全体的な調整と各々の役割分担、進捗状況の把握、今後の情勢の変化による取組の見直し等を検討するための組織として、「くまもと都市戦略会議規約」第4条の規定に基づき、熊本県・熊本市・熊本大学・熊本商工会議所・熊本経済同友会で構成されるワーキンググループを設置するとともに、10長期的視点に立った産学官連携の調査研究機関の設置を検討する。